

二度目のコロラド訪問

富士学苑高校 武藤朱音

私は八月一日から九日までの九日間、コロラドスプリング市に行ってきました。今回は二回目ということで不安はあまりありませんでしたが、中学生の時とは違い各家庭に一人の派遣だったので前回よりも英語でしっかりホストファミリーや現地の人達とコミュニケーションがとれるかという不安はありました。しかし今、日本に帰ってきてコロラド派遣を振り返ってみると楽しかった思い出しかありません。高校生のホームステイは6日間ととても長い期間でした。その6日間は私にとってとても貴重なものとなりました。

まず、周りに日本人がいなかったのも、何をするにも英語を話さないといけませんでした。一番苦労したのはレストランでメニューを決める時でした。日本とは違い一つ一つに料理の写真もなく、メニューの数もとても多かったです。分からない単語も多く自分の単語力の低さを感じました。この他にホストファミリーとのコミュニケーションを通して自分の英語力のなさ痛感しました。来年には受け入れもあるので、その時には、今回のような悔しい思いをしないように英語の勉強を頑張りたいと思います。

6日間コロラドスプリングス市で過ごす中でたくさんの所に行くことができました。車から見える景色、日本よりも広い道路、左右反対の車線、すべてが日本と違いとても新鮮でした。3日目にはユミさんのお家でBBQをしました。そこで初めて他のホストファミリーと話すことができました。そのとき一緒に行ったみんなが頑張ってホストファミリーとコミュニケーションを取っているのをみてとても刺激を受けました。他にも中学生のときにお世話になった人にも会うことができ、とても嬉しかったのを覚えています。別の日には動物園に行ったり、水族館やアウトレットにも行くことができ、充実した日々を送ることができました。

食事の面でも新しい発見をすることができました。食事の面で私が苦労したことは、野菜が食べられないことと量の多さでした。1週間アメリカで生活をして、野菜を口にできたのは2回、3回程でした。出発前にそうなることは予想していたけれど、野菜が食べられなくてつらかったです。また、量も日本と比べると本当に多く、「これぞアメリカだなあ。」と食文化の違いも身にしみて感じました。

アメリカでは食べ物においてすべての物が日本よりも大きかったです。そのことを実際に目で見て、手に取って感じることができました。今回コロラド訪問で経験したことは全てが貴重なことでした。誰もが体験できることではないし、簡単に行けるところでもありません。だから今回この事業に参加することができて本当に、本当に良かったですし、行かせてくれた親に感謝の気持ちでいっぱいです。そしてこの5人のメンバーとユミさんと一緒に行けたことが一番の幸せです。現地で一緒に居られることは少なかったですが、みんなに会うと安心して自然に笑顔になれました。最初の3日間位は日本が恋しくなっていたけど、その時にみんなに会えた時の嬉しさは忘れられません。

来年は私達が受け入れる番です。アメリカから来る5人の人達に日本人の良さを伝えられるように5人で頑張りたいと思います。「今回の事業をこれからの生活においてのモチベーションにしたい。」と結団式に言いましたが今後も有言実行できるように頑張っていきたいと思います。